

企画書 例

後藤靖香個展 「必死のパッチ」

○展示概要

画家の後藤靖香氏（京都精華大学芸術学部造形学科洋画コース卒業）の個展。本展のために制作予定の新作一点と、過去の代表作数点で展示を構成します。

後藤氏は、祖父や大叔父など親族の戦争体験に基づき、その過酷な時代を生き抜いた人々を描いた作品で注目を集めました。その後、大阪の造船所跡地や広島の実験場跡地にあった小学校など、展示場所に応じて当時の人々の葛藤や営みをテーマにした作品を手掛けています。共通するのは、有名無名を問わず、その時代を懸命に生きた人々の姿を描くことにあり、それが後藤の作品の真のテーマであると言えます。出品予定の作品はいずれも戦争体験をテーマに、従軍した親族や博士、戦争画家らが大胆な構図で描かれており、後藤氏の作風を顕著に感じることができる代表作です。これらの作品群をギャラリーフロールの空間を活かして展示構成することで、後藤のこれまでの軌跡を体感できる展示を目指します。

<後略>

(ギャラリーフロール 2016 年度後期企画展 企画書より抜粋)

○出展作家

後藤 靖香 GOTO Yasuka

広島県在住。1982 年、広島県生まれ。2004 年京都精華大学芸術学部造形学科洋画コース卒業
2016 年「モディリアーニの古釘」A/D Gallery（東京）、「後藤靖香個展 おじいちゃんと戦争画と」はつかいち美術ギャラリー（広島）で個展を開催。2016 年「瀬戸内国際芸術祭 2016」秋会期 高見島（香川）「六本木クロッシング 2016」森美術館（東京）。2015 年「ライフ=ワーク」広島市現代美術館（広島）、「ゲンビどこでも企画公募 2015 展」（広島）などグループ展への参加も多数。

○出品作品イメージ



《机上の空砲》2013 年／鉛筆、墨、キャンバス／212(h)×430(w) cm×3 点